Tokyo Tech Concert Series

Gala Concert, Students of Tokyo University of the Arts and Tokyo Institute of Technology + Olivier Messiaen «Quatuor pour la Fin du Temps»

Tokyo University of the Arts: Koki KUROIWA (pf), Honoka KISHIMOTO (vn), Rinako YAGUCHI (vc) and Yumeki TERUNUMA (cl)

Graduate and Undergraduate Students of Tokyo Institute of Technology

Thursday November 9th 2017, 17:30- (Gala) 19:00- (Messiaen) (open 17:00) **Free of charge**

Tokyo Institute of Technology, O-okayama campus, The 70th Memorial Auditorium

2015年から始まった東工大コンサートシリーズ（**Art Meets Engineering@Tokyo Tech**）、2017年度は、東京藝大と東工大の学生（＋最近の卒業生）の出演による楽しい一夜をお届けします。藝大の若手4人（表紙の写真を参照）は、リサイタルはもちろん、協奏曲のソリストや国内外のコンクールでも大活躍中の若手のエースが勢ぞろい。そのみずみずしい音楽を味わってほしいと思います。東工大の学生たちも、腕に覚えのある勇者ばかり。東工大管弦楽団と東工大生が設立に大きく貢献したアマチュアオーケストラの雄、TBSK管弦楽団（てばさき）の主要メンバーが登場します。

前半のガラコンサートは、全出演者による名曲集。様々な楽器が活躍します。

後半は、藝大の4人の若手によるオリヴィエ・メシアン「世（時）の終わりのための四重奏曲（1940）」です。20世紀に書かれた室内楽作品の金字塔。メシアン（1908-1992）が、戦場とドイツ軍の捕虜収容所で出会った音楽家たちと収容所内で演奏するために作曲したもので、ピアノ、ヴァイオリン、チェロ、クラリネットという特殊な編成は、収容所の音楽家の楽器に合わせたものです。背景に「ヨハネの黙示録」の10章がありますので、その理解が少しだけ必要です。当日、プレトークで簡単に解説を行います。

出演者のプロフィールと曲目の全容は、当日配布のプログラムに記載します。

ジョット・ディ・ボンドーネ　小鳥に説教するアッシジの聖フランチェスコ
1305年頃

★70周年記念講堂へは、大岡山駅改札口から大学正門を通り、正面にガラス張りの図書館（通称・チーズケーキ）が見えます。その左手にあり、ウッドデッキから入場できます。改札から約3分。

東工大およびTBSK団員：
木5[五十嵐和幸、 杉田充、濱井瞭、阪本真、村田遼介]
木5[三宅雅也、岸本史直、山森章弘、郷田晃央、森絵理夏]
弦楽[田中詩織、村部大樹、北　玲男、彦坂　元、星めぐみ、萩原雅文、守本和生、川原佑介]
金管4[土田繁、伊藤歩未、伊藤秀太郎、鴨川友輔]

絵の解説

ブラン=ガッティ　オーケストラ

メシアンは、1930年代にブラン=ガッティと出会い、「音と色との間に存在する調性とニュアンスとの交感」について考え、過酷な捕虜収容所の中で「視覚連想（色彩と聴音との内的同時性）」を獲得したと語っている。

ジョット　小鳥に説教するアッシジの聖フランチェスコ

メシアンは、鳥を熱愛し、鳥の歌の声を音楽にすることをライフワークとした。四重奏にも鳥の歌が登場する。ここでは、メシアンが作曲したオペラ「アッシジの聖フランチェスコ（1983年パリ・オペラ座で小澤征爾指揮で初演）」に関連して、ジョットの壁画を紹介する。

東京工業大学

1881年に工業立国を目指した明治政府が開学した東京職工学校（蔵前）が前身であり、関東大震災の後、現在の大岡山の地に移る。1929年に官立大学に昇格し、東京工業大学となる。伝統的な理学、工学以外に、情報、バイオ、社会科学、経営などをカバーする世界的に有名な理工系総合大学である。（世界大学ランキングでは、東大、京大についで国内3位）卒業生や教員の顕著な業績として、電子式テレビジョン（高柳健次郎）、磁気記憶材料フェライト（加藤与五郎、武井武）、ビタミンB2の合成（星野敏雄）、光ファイバー通信技術（末松安晴）、向山アルドール反応：作曲家ボロディンの発見した化学反応の精密化（向山光昭）、電気を流すプラスチック（白川英樹・2001年ノーベル化学賞受賞）、面発光レーザ（伊賀健一）、バナナ型液晶（渡辺順次）、透明酸化物半導体・イグゾー・鉄系超電導（細野秀雄）など多数。また2016年には、大隅良典特別栄誉教授がオートファジーの研究によりノーベル医学・生理学賞を受賞した。東工大は、古くからリベラル・アーツに力を入れており、学生の自発的な活動でも、伝統ある東工大管弦楽団（学生オケ）をはじめ芸術への造詣が深い。今回の会場である70周年記念講堂は、東工大の教授であった谷口吉生設計の名建築である。